

明理会中央総合病院 泌尿器科後期臨床研修プログラム

研修責任者：志賀 淑之

【病院の特徴】

『明理会中央総合病院』は『愛し愛される病院』を基本理念とする板橋中央総合病院グループ（IMSグループ）に属し、東京都板橋区において、昭和51年「大和病院」として開設以来、腎・泌尿器科の専門病院として地域医療に貢献してきました。本院である板橋中央総合病院の近隣に位置することから、長らく同病院のいわば泌尿器科部門として独立するような形で地域医療に携わってきました。もともと日本泌尿器科学会指定の臨床研修指定病院でしたが、臨床研修義務化が始まってからは、IMSイムスグループ初期研修医の泌尿器科研修も担い、2007年からは後期研修もスタートさせてきました。

平成21年11月に東京都北区東十条へ移転し、これまでの「大和病院」から『明理会中央総合病院』へ病院名を変更しました。従来の病床数167床から311床への増床、診療科の拡大により、地域中核を担う総合病院として生まれ変わります。総合病院内の泌尿器科として、地域医療の貢献をすべく、地域住民と密着した医療、地域医療機関との密接な連携に力を入れています。

また救急医療・24時間体制の地域中核を担う総合病院を目指しており、できるだけ早く、全国的にも珍しい泌尿器科当直導入を検討しています。今まで以上に、都内はもとより、近隣他県からも、昼夜を問わず泌尿器疾患患者の受診、紹介される病院を目指しています。

個別の治療分野における当科の特徴を紹介します。尿路結石症に関しては、これまで培ってきた28000例以上の臨床経験と、移転に伴い2台のESWLの機種も最新鋭のものに換え、f-TUL（軟性尿管鏡下レーザー砕石術）も導入し、さらなる治療成績の向上を図っています。

また2010年3月より腹腔鏡手術ならびにHoLEP（holmiumレーザー前立腺核出術）を導入、さらにはHIFU（高密度焦点式超音波治療）もバージョンアップし、低侵襲手術の先端医療のレベルアップ化を図っています。今後も時代のニーズに俊敏に対応すべく、腹腔鏡手術やロボット手術の研修なども積極的に参加しています。

現在、日本泌尿器科学会指導医資格者4名、専門医資格者3名による診療体制をとっていますが、日常臨床以外にも国内外の専門学会への参加、発表ならびに論文発表も積極的に行い、アカデミックな研修もできるような体制を整えています。

以上のように、若い先生方の医療に対する情熱を具現化し、地域に密着しながら、一般泌尿器科から最先端の泌尿器医療まで、アカデミックに効率よく専門研修を受けられる全国的にも珍しい病院であると確信しています。

【研修目標】

●1年目（卒後3年目）

初期研修で得られた知識ならびに診察力に加え、泌尿器科の特徴的診察法、診断法、処置法を習得します。

上級医とともに、外来、病棟を担当し、泌尿器科的手術の研鑽を積みます。外来処置では膀胱鏡や尿道ブジー、的確なカテーテル交換、尿管ステント挿入、膀胱瘻、腎瘻造設などを学びます。泌尿器エコーは生理機能検査室と連携してエコー診断法を学びます。

手術では、上級医とともにESWLやHIFU、HoLEP助手、腹腔鏡手術助手、開腹手術助手などを行ってもらいます。

病棟は専門医資格・指導医資格を有する上級医師らと一緒にチーム制で管理します。

●2年目（卒後4年目）

上級医観察、指導のもと、独立して外来、病棟、マケ-手術・処置が行えるようになります。研究日も一日与えられ、日常臨床のなかでの疑問点や自分の興味ある研究テーマを見つけ、能動的に学会活動や診療ができるよう目指します。都内はもとより、国内外の短期研修も希望があれば許可します。

●3年目（卒後5年目）

1年次2年次で研鑽した技術、知識を充実させる時期です。専門医取得に向け、自己学習もしていただきます。外来、病棟におけるマネジメント力のさらなる向上を図ります。

●4年目（卒後6年目）

泌尿器科専門医として独り立ちができるようになる集大成の時期です。年次の終わりには専門医取得を目指します。上級医観察、指導のもと、下級研修医と2人で処置、手術が行える力を養います。病棟管理に関しても担当責任者の自覚をもってマネジメントできるようにします。

【プログラムの特徴】

初期研修2年間を終え、泌尿器科を習得しようとする方、あるいは引き続き泌尿器科の研修を希望される方にプログラムを用意しています。いずれも泌尿器科指導医あるいは専門医の指導の下で行います。

① 外来

問診、検査（特に内視鏡検査、エコー検査）、そして診断、治療と、泌尿器科臨床医として、患者様を的確に診れるようにします。

②入院

担当医として患者様を受け持ち、術前術後管理だけでなく終末期医療も携われるようにします。

③手術

泌尿器科手術の際（内視鏡手術、開腹手術いずれも）には、術者あるいは第一助手として入室し、技術を習得します。また、ESWLは単独で行えるように指導します。

【後期研修の特徴】

当院泌尿器科は大学病院と比べても遜色ない症例数【ホームページ：平成21年11月～平成22年8月までの手術件数参照】を誇っています。

もちろん大学病院でも症例数は多いと思いますが、後期研修医や若手臨床医も多く必要な経験が出来るとは限りません。その点、当院ではほぼ所属する泌尿器科医全員が指導医資格を有しており、また、後期研修医の募集人数を数人と厳選していることから、十分な研修が出来ると確信しています。すなわち当院は、泌尿器科臨床医として早く技術を身につけて一人前になりたいという研修医のニーズに十分応えられる数少ない研修病院、泌尿器科を目指しなおかつ臨床に重きをと考える研修医の先生に応えられる病院であると自負しています。

また、基本的には泌尿器専門病院としてのスタンスをとっていますが、希望があれば板橋中央総合病院とも連携し、研究日には他科で研修を受けることも可能です。また、リサーチを希望される先生には大学、あるいはがん専門病院との連携もっておりますので、そうした要望にも十分に答えることができるでしょう。

【関連学会】

日本泌尿器科学会

【施設認定】

日本泌尿器科専門医教育施設

【研修責任者】

志賀 淑之 部長 泌尿器科指導医 H6 筑波大学卒

【専門医・医局員】

森川 弘史	副部長	泌尿器科指導医	平成8年	川崎医科大学卒
谷口 淳	医長	泌尿器科指導医	昭和58年	群馬大学卒
皆川 真吾	医長	泌尿器科専門医	平成13年	秋田大学卒
山本 隆次		泌尿器科指導医	昭和52年	帝京大学卒
針生 恭一		泌尿器科指導医	平成6年	帝京大学卒
横山 大司		泌尿器科専門医	平成14年	東京大学卒

【研修期間】

4年間

【処遇】

身分：常勤医

給与：月額 583,000 円（卒後3年目）、当直手当別途支給

保険：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、医師賠償責任保険

宿舎：住宅補助有、学会・研究会への参加費支給有

【募集人員】

各年度 若干名

【後期研修後の進路】

同院及び希望を鑑み、法人内関連病院にてさらに多くの経験を積むことができるシステムを組み込んでいます。

【平成22年1月～平成22年12月手術件数】

経尿道の膀胱腫瘍切除術	80
膀胱全摘	18
(回腸導管)	(8)
(新膀胱)	(4)
(尿管皮膚瘻)	(6)
膀胱部分切除	1
腎摘除術	11
(開腹手術)	(8)
(腹腔鏡手術)	(3)
腎部分切除術	2
腎尿管全摘	17
(開腹手術)	(12)
(腹腔鏡手術)	(5)
腹腔鏡下副腎摘除術	2
前立腺生検	179
前立腺全摘	32
経尿道的前立腺切除術 (TUR-P)	30
HoLEP	69
HIFU	12
尿管碎石術	41
尿失禁手術	1
尿道手術	6
その他	118
合計	619
体外衝撃波・尿管結石破碎術	1031
総合計	1657